

「農学部と庄内の未来」

食料生命環境学科
食農環境マネジメント学コース
教 授 岩 鼻 通 明



農学部を定年退職するに際し、過去の回想は創立70周年記念誌に記させていただいたこともあります。未来に向けての小文を記したい。農学部は山形大学の6学部のうち、いちばん学生定員が少なく、いちばん本部の置かれた山形市から遠く離れていて、歴史的にもいちばん新しく戦後に成立した学部である。意外と、このことは自觉されていないよりも思われる。

今後、さらに想定される大学改革の進行によって、農学部がどのように変化していくのか、卒業生の方々には、ぜひ関心を持ち続けたいときたいし、多様な意見や提言を期待したい。

それはさておき、山形県を置

（図1）生産費は変動費（種苗費、肥料費、農薬費、素畜費、飼料費など）と固定費（機械償却費、建物償却費など）に分けながら試算を行っています。また、収入は生産量および販売価格を設定し、試算を行っています。これらの試算の際には、耕畜連携の肝となる、畑作農家から規格外農産物・余剰農産物・子実トウモロコシの提供および畜産農家からの豚フン完熟堆肥の提供による経費削減の効果に行い、収益性を検証しています。

（図2）農工一体による農畜産物加工品の経営的評価では、農畜産物加工食品の生産モデルの構築を目指しています。現在は、加工食品のコストの算出を行い、その収益性の検証を行っています。加工品のコストは大きく3つにわけることができます（図2）。まず1つ目は、農業者が加工食品に使用する農畜産物の提供費用である原料費です。これは、前述①「耕畜連携による経費削減 畑作農家：肥料費 畜産農家：飼料費」についても考慮していきます。

（図3）「循環型農村社会の成立要因の解説」では、スマート・テロワールを庄内地域に普及させていくために必要な条件の解説を目指しています。現在は、地産地消の拡大に向けて庄内地域の住民が実際に販売に係る費用である販売費です。最後の3つ目は、小売業者における販売に係る費用である販売費です。

スマート・テロワールでは農畜産物加工品の販売価格の目標として、ナショナルブランドの面から検討していきます。

その後、この目標販売価格を達成することができるのかをコスト

に係る費用である加工費です。

最後の3つ目は、小売業者における販売に係る費用である販売費です。

最後の3つ目は、小売業者における販売に係る費用である販売費です。